

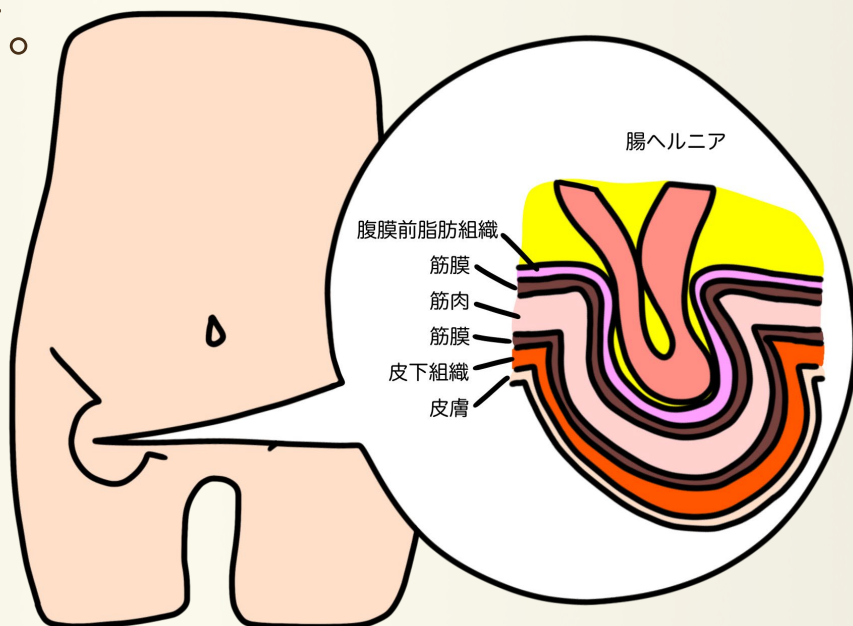
鼠径（そけい）ヘルニア 手術を受けられる方へ



景岳会 南大阪病院
外科

鼠径ヘルニアとは？

- ヘルニアはラテン語で『脱出』という意味であり、人間におけるヘルニアは本来は体内の臓器（腸や脂肪など）が、体壁の弱い部分や隙間から脱出してくる状態を指します。
- ヘルニアは様々な部位に生じますが、足の付け根付近（鼠径部）で起こるものを鼠径ヘルニアと呼びます。
- 脱出してくる臓器としては腸が多く、このため脱腸とも呼ばれます。
- 鼠径ヘルニアの症状は下腹部に柔らかい膨らみが出てきます。立っている時やお腹に力を入れた時に、膨らみが出やすく、横になったり手で押したりすると膨らみは解消されます。

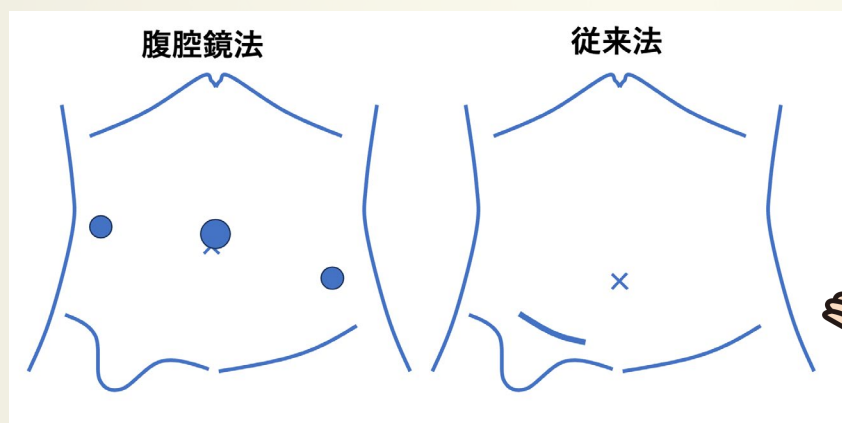


- この膨らみは、しだいに大きくなることが多く、出たり入ったりを繰り返すと違和感や痛みが生じてきます。
- 脱出が戻らなくなった状態を嵌頓（かんとん）といい、脱出した腸がはまりこんでしまい、腸閉塞が生じたり、脱出腸の壊死が生じ、緊急手術が必要な状態となることもあります。
- 成人の鼠径ヘルニアは年齢を重ねることで、身体の組織（特に筋肉）が弱くなって生じることが多く、自然に改善することは無く、薬による治療は期待できません。ヘルニア帯と呼ばれる、圧迫器具を使用されている方もおられますが、皮膚障害などを生じ危険です。
- 鼠径ヘルニアの治療法は外科的治療しかありません。



鼠径ヘルニアの治療

- 鼠径ヘルニアの手術は、鼠径部を切開して行う**従来法**と、腹腔鏡を用いて行う**腹腔鏡法**の2種類があります。



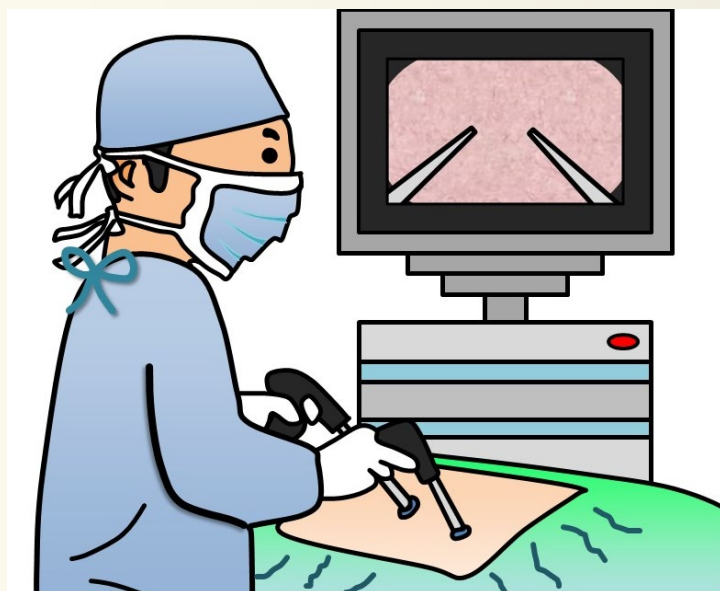
- 当院では、お腹に小さな穴を開けて、モニターを見ながら手術を行う腹腔鏡手術を採用しています。
- お腹の内側からヘルニアになっている部位を確認し、メッシュと呼ばれる薄いシートを用いて穴を塞ぐとともに周囲の筋肉を補強します。
- しかし、嵌頓により腸壊死になっている場合や手術既往（特に前立腺手術）のある方、全身麻酔が困難な合併症を有する方では、腹腔鏡手術は困難なため従来法で行なっています。

腹腔鏡法によるヘルニア手術のメリット

- 傷が小さく美容的です。
- 従来の手術より疼痛が軽減できます。
- 術後早期に社会復帰が可能です
- 鼠径部に他のヘルニアがあっても診断が可能です
- さらに両側のヘルニアがあっても同時に同じ創で治療可能です

腹腔鏡法によるヘルニア手術のデメリット

- 腹腔鏡法は全身麻酔が必要です
- 従来 of 術式に比べて手術時間が若干長くなります
- お腹の中の癒着が強い場合など腹腔鏡手術が安全に行うことが難しい場合には従来法へ変更することがあります。



手術の合併症・その他

- 鼠径ヘルニアの手術における合併症は非常に少ないものの、ある一定の確率で合併症が生じることがあります。
- ①**出血**：血をサラサラにする薬を内服されておられる方では特に注意が必要です。
- ②**感染**：腹壁の創部の感染とメッシュの感染があります。メッシュの感染が生じた場合にはメッシュの除去が必要になる可能性もあります。
- ③**手術部位の腫れ**：数ヶ月程度で改善します。
- ④**ヘルニアの再発**：メッシュの改良により再発率は低下してきおり、2～5%程度とされています。
- ⑤**鼠径部の違和感**
- ⑥**漿液腫**：ヘルニアが大きい場合には、鼠径部に水が溜まる『漿液腫』が生じることがあります。自然に吸収されることが多いですが、穿刺して水を抜くこともあります。
- ⑦**反対側のヘルニアの発症**：10%くらいに発症するとされています。
- ⑧**その他**：麻酔に関する合併症もあります。

入院期間について

- 手術後2～3日で退院できます。
- 日帰り手術も行なっておりますが、詳細に関しては外来の担当医にお尋ねください。

退院後の生活について

- 退院後1週間から2週間程度で外来受診していただき、創部や鼠径部の観察を行います。
- 運動については次回の外来受診までは少し控えていただいて、歩行などの軽い運動から開始してください。
- 力仕事や激しい運動は術後3週間程度は避けてください。

最後に

- 当院では、術後疼痛や運動制限が少ない腹腔鏡を使用した鼠径ヘルニアの治療を積極的に行なっています。
- また、仕事や都合により入院が困難な方には、日帰り手術も行なっております。
- ご不明な点や手術について聞きたい場合には外来担当医にお尋ねください。

